2023 年度　「福島に学ぶプロジェクト」　活動報告

タイトル	放射線教育		
学校名	福島県福島市立松陵中学校	教員名	阿部 洋己、神野　学
学年	1～3 年	教科	総合学習、理科、道徳
使用した教材、教科書等	ふくしま道徳教育資料集		

1. 目的

生徒には、なぜ放射線について学ばなければいけないかを、東日本大震災や原子力発電所の事故の教訓から理解させ、いざという時（原子力災害等）の避難行動の際に適切に判断し、行動に結びつけることが出来る知識や情報を身に付けさせたい。将来的に、原子力発電所の事故の教訓を、次の世代に引き継げるよう、語り継ぐことができる大人へと成長させたい。さらに、科学的に根拠のない風評等に屈することのない、科学的な根拠を拠り所として他に発信できるような素養を持たせたい。

2. 活動内容

①専門家による講義

全学年を対象に、福島県立医科大学より坪倉正治教授をお招きし、放射線の基礎知識や放射線を学ぶ意義、原子力災害が起こった当時の様子などについて2回講演を頂いた。

また、災害時に「自ら考え・判断し・行動する」ことができるよう、講演を通して得た正しい知識と関連させ、避難訓練（原子力災害）を実施した。

福島県立医科大学坪倉正治教授の講演

②震災から学ぶ見学学習

１学年は「東日本大震災・原子力災害伝承館、請戸小学校」、２学年は「福島県環境創造センター」で見学学習を実施した。伝承館においては、震災時の状況について実際に見たり、話しを聞いたりすることで、放射線の影響及びこれからの福島県の復興について考えを深めることができた。環境創造センターでは、放射線の基礎知識や原子力災害の原因や経過について、映像や模型を使いながら学んだ。また、実際に霧箱で放射線の飛跡を確認し、α線が紙で遮蔽できる様子などの観察も行った。

③道徳の授業を実施

日本大学工学部の渡邉真魚教授をお招きし、「ふくしま道徳教育資料集」（震災直後に福島県教育委員会が編纂した震災時の実話をもとに作成された道徳資料）の内容による授業を行った。（1学年：3回、2学年：2回、3学年：2回）

今回行った、震災当時の状況を内面から疑似体験できる道徳の授業と、科学的根拠をもとにした放射線教育から学んだ正しい知識とを関連付けながら、災害時の対応についても考えを深めることができた。

3. まとめ

外部講師から放射線についての正しい知識を学んだことで、生徒は科学的根拠に基づいて行動する大切さについて実感することができた。

避難訓練や外部講師による講演、特別非常勤講師による道徳の授業、総合的な学習の時間や理科の授業など、学校教育全体の活動と連携・連動させ放射線教育を実践したことにより、生徒の放射線に対する意識はもちろんのこと、災害時の行動についても深く考えることができた。また、生徒だけでなく、教員や保護者も放射線教育についての重要性を改めて実感した。

東日本大震災を体験していない生徒だからこそ、今後も教育活動全体を通した放射線教育を実践していくことの必要性を感じた。科学的根拠を拠り所として次の世代や他に発信できるような生徒を育成していきたい。